

第1学年道徳科学習指導案

日 時 令和〇年〇月〇日 (〇)
授業者 〇 〇 〇 〇

1 主題名

わがままな行い「A-(3) 節度, 節制」

2 ねらいと教材

(1) ねらい

自分勝手な行動をしないで、周りの人のことを考え、わがままな心を抑えて生活しようとする道徳的心情を育てる。

(2) 教材名

「かぼちゃのつる」(東京書籍 新しいどうとく1年)

3 主題設定の理由

(1) ねらいや指導内容についての教師の捉え方

わがままをしないとは、自分勝手な行動をしないで、周りの人のことを考えて行動することである。児童は、友達と仲良く遊ぼうという気持ちは育っている。その反面、友達に対して自己中心的でわがままな態度をとる様子も見られるようになってくる。そこで、集団生活を送る際に自分勝手な行動はせず、周りの人のことを考えて、自分のわがままな気持ちを抑えて生活することが大切であるという道徳的心情を育てることが大切であると考えます。

(2) 児童のこれまでの学習状況や実態と教師の願い

児童は、小学校に入学し、少しずつ集団生活に慣れてきている段階である。日常生活の行動を通して、周囲への気配りや、思いやりを持つことや、安全のきまりを守ってそれを実現すること、身の回りを整えて気持ちの良い生活ができるようにすることなど、繰り返し指導されてきている。さらに、それらを守ろうとする様子も見られてきている。しかし、友達同士で過ごすとなると、友達の注意を聞かなかったり、自分のわがままを押し通したりすることで友達とトラブルが起きることがある。集団で生活する中で、自分勝手な行動を慎んだり、注意をされたらすぐにやめたりするなど、お互いに気持ちよく生活するためにわがままではしないことについて深く考えさせたい。

(3) 使用する教材の特質やそれを生かす具体的な活用方法

本教材は、わがままなかぼちゃが、自分のやりたい放題にかぼちゃのつるを伸ばしていき、みつばちやチョウに注意されても聞き入れず、ついには、道路を挟んだ隣のすいかの畑までつるを伸ばしていき、すいかや小犬にも注意されてもつるを伸ばすことをやめなかったが、とうとう、走ってきたトラックにつるを切られるという話である。

本時の指導に当たっては、つるを伸ばしたことがいけないのではなく、自分勝手にわがままにつるを伸ばしたことが問題なのだということを考えさせたい。そこで、まず、導入では、天気の良い日は、みんなはどのような気持ちになるのかを問い、かぼちゃはつるを気持ちよく伸ばしたかったことを捉えさせる。そして、展開では、役割演技を取り入れ、かぼちゃや他の生き物に十分に自分との関わりで考えさせ、周りの人達の気持ちを考えて行動することの大切さに気付かせたい。

4 学習指導過程

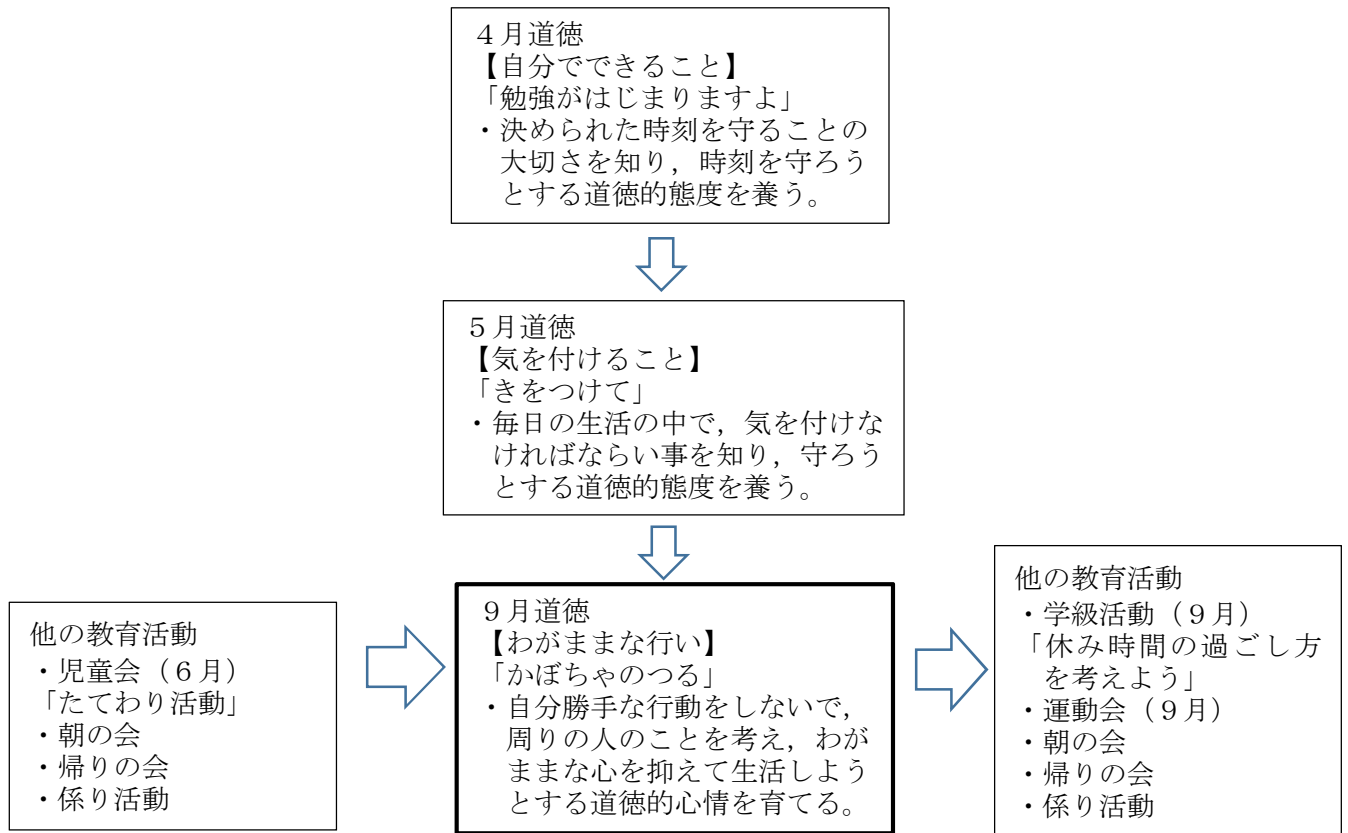
	<p style="text-align: center;">学習活動</p> <p style="text-align: center;">主な発問 ・ 予想される児童生徒の反応</p>	<p style="text-align: center;">指導上の留意点</p>
<p>導入 7分</p>	<p>1 本時のねらいとなる道徳的価値について、問題意識を持つ。</p> <p>○ みなさんは、天気の良い日は、どのように過ごしたいですか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 外で元気に遊ぶ。 <p>○ かぼちゃはどのように成長するか知っていますか。どのようにつるを伸ばしたいですか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ ぐんぐんつるを伸ばしたい。 <p>2 課題をつかむ。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p style="text-align: center;">周りの人と仲良く過ごす大切さを考えよう。</p> </div>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 今までの自分の生活を振り返り、天気の良い日は、どのように過ごしたいのか想起させ、自分との関わりで問題意識を持たせる。 ・ かぼちゃはつるを伸ばして成長する野菜であることを確かめ、かぼちゃは天気の良い日はつるを伸ばしたいということを捉え、その後の話合いで、かぼちゃはつるを伸ばしてはいけないという展開にならないよう留意する。 ・ 課題を捉えさせるために、元気に遊ぶことは、良いことだけれど、周りの人から注意を受けたこともある経験を思い出させる。
<p>展開前段 28分</p>	<p>3 登場人物の心情を自分との関わりで捉える。</p> <p>○ つるをぐんぐん伸ばしているとき、かぼちゃさんは、どのような気持ちだったでしょう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 気持ちいいなあ。 ・ もっと遠くまで伸ばそう。 ・ 楽しいな。 <p>○ みつばちやチョウに注意されたとき、かぼちゃさんは、どのようなことを思っていましたか。役割演技をして考えてみましょう。</p> <p>かぼちゃ 「あー、気持ちいいなあ。ぐんぐんつるを伸ばすぞ」</p> <p>みつばち 「かぼちゃさん、こっちへ伸ばしてだめですよ。人の通る道ですよ」</p> <p>かぼちゃ 「うるさいな」</p> <p>チョウ 「かぼちゃさんの畑は、まだ空いていますよ」</p> <p>かぼちゃ 「ほっといてくれよ」</p> <p>すいか 「ここは、わたしの畑ですよ」</p> <p>かぼちゃ 「けちけちするなよ」</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 教材の内容を掴みやすくするために、場面絵を紙芝居のように準備をして、黒板に貼る。 ・ ぐんぐん伸びているときのかぼちゃの気持ちに共感させるために、自分は、天気の良い日はどのようにして遊びたいか考えさせる。 ・ かぼちゃが他の生き物たちの忠告を聞き入れずに、つるを伸ばしているときの気持ちを考えさせたり、注意している他の生き物たちの気持ちを考えさせたりするために、役割演技を取り入れる。 ・ 役割演技の注意点を確かめるために、最初に、かぼちゃの役を教師、他の生き物を児童が行う。 ・ 見ている児童には、代表児童が演じている様子を見て、どのように感じたのかを発表するということを伝える。 ・ かぼちゃの視点で考えさせるために、かぼちゃは即興の台詞で言わせ、その他の生き物は台詞を用意する。 ・ 他の生き物役の児童には、かぼちゃが言うことを聞いてくれなくてどのように思ったのか、見ている児童は、かぼちゃの言動を見ていてどのように思うか、という視点を与える。

	<p>小犬 「みんなの通る道だよ。じゃまだな」</p> <p>かぼちゃ 「またいで通ればいいだろ」</p> <p>○他の生き物の役をやってみてどうでしたか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・言うことを聞いてくれなくていやだった。 <p>○かぼちゃさんは、どうして言うことを聞かなかったのでしょうか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・もっと、つるを伸ばしたかったのに、注意されていやだった。 <p>○見ていたみなさんは、どのようなことを思いましたか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・かぼちゃさんは、どうしていうことを聞かないんだろう。 ・もっと、伸ばしたかったのかな。 ・注意は、聞いた方がいいと思った。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>◎ 車にひかれてつるを切られてしまったとき、かぼちゃさんは、どのようなことを思ったでしょう。</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> ・痛いよう。みんなの言うことを聞けば良かった。 ・なんで、切られてしまったんだろう。隣の畑まで伸ばさなければ良かった。 ・みんなの気持ちを考えないで、わがままだったかな。 	<ul style="list-style-type: none"> ・役割演技後に、他の生き物役の子童の感想や、かぼちゃ役の子童の感想を聞くことを通して、子童の本音に迫る。 ・演技を見ていた子童には、かぼちゃがどうすれば良かったのか、その考えを聞くことで、わがままをすることは、周りに迷惑をかけてしまうことへの理解を深めさせる。 ・かぼちゃはつるを伸ばしてはいけないという意見に偏りそうなときは、問い返しの発問を用意する。 <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>問い返しの発問</p> <ul style="list-style-type: none"> ・かぼちゃは、つるを伸ばしてはいけないのですか。 ・みなさんは、遊んではいけないのですか。 </div> <ul style="list-style-type: none"> ・考えを書きやすくするために、吹き出しのワークシートを用意し、かぼちゃが思ったことを考え、記入させる。 ・多面的・多角的に考えさせるために、全体で発表し考えを共有する。
<p>展 開 後 段 5 分</p>	<p>4 お互いに気持ちよく生活する大切さについて考える。</p> <p>○あなたが、かぼちゃさんだったら、どうしますか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ちがうところにつるを伸ばす。 ・周りの人に迷惑にならないようにする。 ・注意をされたら、どうしたらいいか考えて、わがままをやめる。 ・周りの人のことも考える。 	<ul style="list-style-type: none"> ・自分が「かぼちゃさんだったら」と問うことで、子童が、状況を考えてどのようにすれば自分のやりたいことを周りに迷惑を掛けずにできるのか考えさせる。
<p>終 末 5 分</p>	<p>5 自己の生き方について考える。</p> <p>○周りの友達と仲良く過ごすために大切なことは何だと思いますか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・わがままをしないで、周りの友達のことにも考えること。 	<ul style="list-style-type: none"> ・道徳的価値を自分との関わりで捉えさせるために、振り返りの視点を示す。

【評価】

わがままをしないで周りの人のことも考えるよさについて、体験的な学習を通して、多面的・多角的に考えようとしていたか。

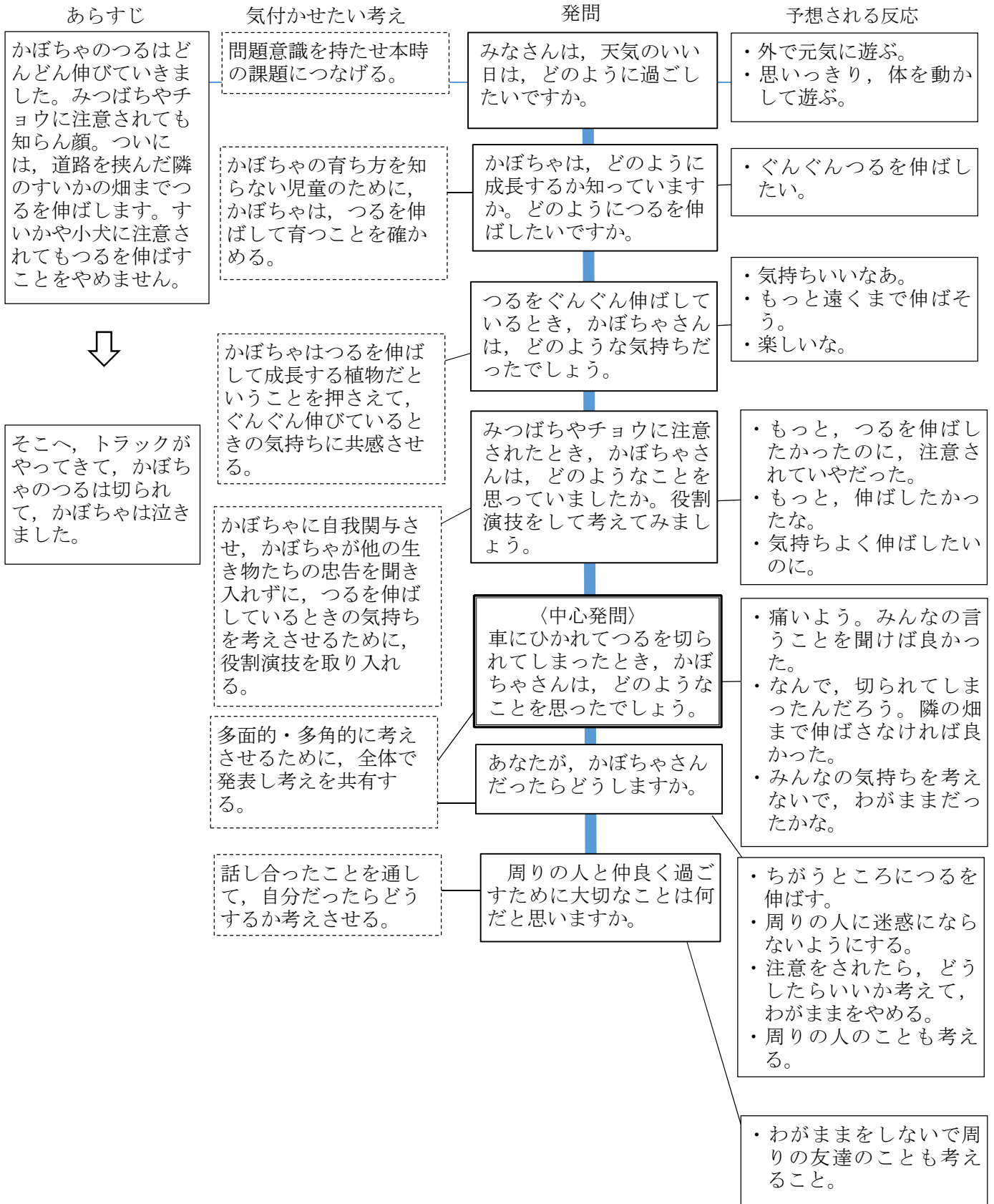
5 他の教育活動との関連



6 補充・深化・統合の視点【深化】

この教材は、自分勝手につるを伸ばしたいというわがままをしたことで、周りに迷惑を掛け、自分も痛い思いをするという内容である。児童は、「節度・節制」が大切であることは、今までの学習を通して学んできているが、実感を伴った理解には至っていない。そのため、この教材を通して、わがままな心を抑えて生活することのよさや、周囲に対する気配りや思いやりを持つことのよさについて深く考えさせたい。

7 教材分析・発問構成



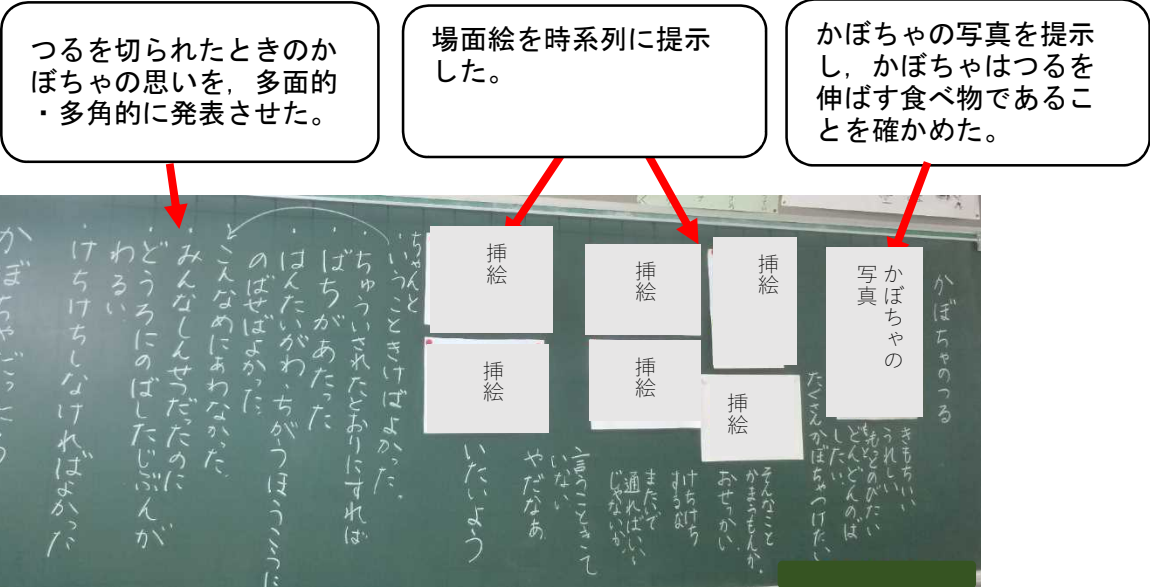
8 準備物

教師：教科書、場面絵、動画

児童：教科書、ノート

9 実践の記録 (○成果, ●課題)

【板書】



(1) 導入

自分との関わりで考えさせた

小学校1年生「節度・節制」を扱った教材である。かぼちゃはつるを伸ばす野菜であることを確かめる。自分たちは、天気の良い日には、どのようにして遊びたいか問い、「外に出たい」「元気に走りたい」と思わせてから、では、かぼちゃさんは天気の良い日は、どのようにしたいか問うと「つるをどんどん伸ばしたい」と、自分との関わりを通してかぼちゃはどうしたいのか考えさせた。そうすることで、子供たちは、かぼちゃを通して自分の考えを言うことができた。

実際のやり取り

- T 「みんなは天気の良い日は、どう過ごしたい」
- C 「外で遊びたい」
- C 「プールに入りたい」
- T 「どんな気持ちで遊んでいる」
- C 「気持ちいい」
- C 「もっと遊びたい」
- T 「かぼちゃさんは天気の良い日はどうしたいと思う」
- C 「お水飲みたい」
- T 「他には」
- C 「太陽の光をたくさんをたくさん浴びたい」
- C 「つるのばしたい」
- T 「今日は、かぼちゃさんがつるを伸ばすお話です。どんなお話かな。かぼちゃさんや他の動物さんはどんなことを考えているのかなと思いながら、お話を聞きましょう」

(2) 展開

役割演技を通して登場人物の気持ちを自分のこととして考えさせた

- 即興的に演技することが難しく、なかなか本音を引き出すことが難しかったので、かぼちゃに自我関与させながら、物語に沿って考えさせていくことがよかったのではないかと思った。

役割演技の様子（他の生き物）

- T 「言うことを聞いてくれなくてどうだった」
C 「嫌だった」
C 「嫌な気持ちだった」
C 「けちだった」
T 「どういうこと」
C 「だって、じゃまだったから」
T 「じゃまで、嫌だなんて思ったのね」
T 「見ていたみんなはどうだった」
C 「嫌だった」
C 「悲しかった」
C 「なんで言うことを聞いてくれなかったんだろう」

(3) 終末

自己の生き方について考えさせた

終末では、「自分がかぼちゃさんだったら」として振り返り、今日の授業を通して、考えたことを記述させた。

道徳ノート記述より

- ・やっぱり、はんたいがわにのぼせばよかった。いうことをきけばよかった。みんなにめいわくをかけた。
- ・みんなにちゅういされたら、すなおにきく。どうろのほうにのぼさないで、じぶんのはたけにのぼす。
- ・みんなをこまらせない。
- ・はちさんたちにごめんなさいっていえばよかった。
- ・やさしいきもちになればよかった。